

地域安全マップづくり 指導マニュアル (聞き書きマップ用)



岡山県マスコット「ももっち」

岡山県県民生活部くらし安全安心課

もくじ

1	地域安全マップとは？	1ページ
2	地域安全マップづくりのねらいとその効果	1ページ
3	地域安全マップづくり 学習全体の流れ	2ページ
4	事前準備	
①	日程調整	3ページ
②	グループリーダー(ボランティア等)の確保と依頼	3ページ
③	班編制(役割分担)	4ページ
④	準備物準備	5ページ
⑤	フィールドワーク経路設定	5ページ
5	学習の流れ	
①	事前学習	6ページ
②	フィールドワーク	12ページ
③	マップ作製	14ページ
④	発表会	17ページ
6	指導者用資料	18ページ

聞き書きマップとは・・・

県の出前授業では、GPS 受信機やデジタルカメラをもって町歩きをし、地域安全マップづくりを行っています。町歩きから戻ってパソコンにGPS 受信機を繋ぐと通った経路と写真を撮った場所が地図上に表示されます。町歩き後には、印刷した写真と地図を使い簡単に地域安全マップづくりをすることができます。



くらし安全安心課マスコット「ひみつおに」

- ☆地図作成の時間を短縮！
- ☆通学路安全点検に活用！
- ☆「犯罪がおきやすい場所」を集中して探せるよ！



1 地域安全マップとは？

犯罪が起こりやすい場所等を地図にまとめたものです。犯罪者は、犯行の成功しそうな場所を選びます。

そうした場所は、「(だれもが) 入りやすい」、「(だれからも) 見えにくい」という2つのキーワードで表すことができます。

そのような場所を洗い出したものが地域安全マップです。



2 地域安全マップづくりのねらいとその効果

地域の危険箇所を自分の目で確認し、地域住民へのインタビューを行うなど、地域安全マップ作製を通して、子どもは自ら危険を予測する能力（景色を読み解く力）、危険を回避する能力を身につけるとともに、地域との関わりを深めていくことができます。

「入りやすい」、「見えにくい」というキーワードを子どもに意識させ、この「ものさし」を使いこなせるように指導することが大切です。

地域安全マップは、犯罪が起こりやすい場所を表示した地図であって、実際に犯罪が発生した場所を示した地図（犯罪発生マップ）や、不審者が出没した場所を示した地図（不審者マップ）ではありません。

また、大人が地域安全マップを作製し、それを子どもに配布するだけでは、子どもの危険予測・回避能力を高める効果は少ないと言えます。

地域安全マップづくりを体験することで、危険な場所を避けたり、注意力を向上させたりする必要性を強く感じるようになります。

子ども自身が自ら調査し、マップを作製し、発表するという活動によって危険予測能力・危機回避能力が高められます。

なお、地域安全マップづくりは、子ども自身の次のような効果も期待できます。




- コミュニケーション能力の向上
- 地域への愛着心の向上
- 非行防止能力の向上
- 大人の防犯意識の向上



3 地域安全マップづくり 全体の流れ

地域安全マップづくりには、主に4つのステップがあります。

地域安全マップづくりは、学校の規模や実態によって異なりますが、合計4単位時間～7単位時間みておくとよいでしょう。(1単位時間45分間)

		内容	
事前準備		1 日程調整 (※出前授業打合せ)	} 学校で準備
		2 グループリーダー (ボランティア) の確保と依頼	
3 当日の役割分担の設定			
4 準備物の準備			
5 ルートの設定			
		出前授業	
安全マップづくり (4～7単位時間)	① 事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全マップづくりのポイントを理解する。 【ポイント】 「(だれもが) 入りやすい場所」 「(だれからも) 見えにくい場所」 	
	② フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分たちの住んでいる地域を歩く ・「入りやすい場所」「見えにくい場所」等を自分の目で探す。 ・地図上の危険箇所シールを貼ったり、ワークシートにその理由をメモしたりする。 	
	③ マップ作製	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全マップの地図に、写真やメモを貼り付けマップを作製する。 ・フィールドワークで見つけた「入りやすい場所」、「見えにくい場所」等を地図で表現する。 	
	④ 発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・作製したマップを使って、「入りやすく」「見えにくい」という言葉キーワードにして表現する。 ・地図にまとめた内容やマップづくりの感想等を発表する。(地域の方や下学年に発表してもよい。) 	

4 事前準備

地域安全マップの学習実施までに以下のような準備をする必要があります。
実施前には、準備物の準備の他、フィールドワークの経路等や役割分担等を
決めておきましょう。



① 日程調整

学年・児童数	学年	人	グループ数	出前授業
① 事前学習	日時： 月 日 ()	:	～	:
	場所：			
② フィールドワーク	日時： 月 日 ()	:	～	:
	授業終了場所：			
③ マップ作製	日時： 月 日 ()	:	～	:
	場所：			
④ 発表会	日時： 月 日 ()	:	～	:
	場所：			

② グループリーダー（ボランティア等）の確保と依頼

指導者は、事前学習が始まる前に、当日、グループリーダーとして参加してもらう地域の方々（ボランティア等）に、地域安全マップづくりのねらいの説明をしましょう。子どもが主役であることを伝えておきましょう。

もし、打合せの時間がとれない場合は、当日、子どもたちへの事前指導の際、子どもと一緒に説明を聞いてもらい、ねらいと留意点についてお知らせしましょう。

【ねらい】
子どもたちが実際に歩いて、犯罪が起こりやすい場所を自分の目で見分ける力（景色を読み解く力）を育てることが目的です。安全マップをつくることが目的ではありません。安全マップをつくる過程で、子どもたちが自分で考えることが大切です。
【役割】
・児童の安全確保 ・児童への助言
【気をつけること】
<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全には十分気をつけ、児童の安全確保に努めてください。 ・ルートの確認をしながら、歩いてください。 ・メモの番号と地図上に貼るシール番号が一致しているかどうかその都度確認してください。 ・できるだけ児童が主体的に活動できるよう、助言は最低限にしてください。

③班編制（役割分担）

フィールドワーク・マップ作製時のグループ分けを事前に行うと、作業の効率が上がります。

グループは、5、6人が適切です。1グループの人数が増えると、作業時に手持ち無沙汰になり遊ぶ子どもがでてきます。1人1役になるようにします。

係	役割	係	役割
班長 	全体のまとめ役 ※ インタビュー係	地図 	フィールドワークの経路を確認 ※ 班長の兼業可
副班長 	班長の手助け ※ 交通安全の係など ※ 複数人可	メモ 	フィールドワーク時、地図に危険な場所や安全な場所など記録
時計 	時間の管理 ※ 班長の係と兼業可	カメラ 	フィールドワーク時、発見した危険な場所や安全な場所を撮影

※ 学校の状況に合わせ、人数は自由に設定可

【役割分担表】

班	ルート名	班長	副班長	地図	写真	メモ	時計	グループリーダー
1班								
2班								
3班								
4班								
5班								
6班								
7班								

④ 準備物

地域安全マップづくりには、以下の表にあるものが必要となります。
聞き書きマップの活用では、「GPS」を県から貸し出します。



出前授業	
① 事前学習	<input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> スピーカー <input type="checkbox"/> スクリーン(テレビ) <input type="checkbox"/> プロジェクター <input type="checkbox"/> ケーブル (HDMI)
② フィールドワーク	<input type="checkbox"/> まちあるきセット (GPS等) <input type="checkbox"/> デジカメ <input type="checkbox"/> 番号シール <input type="checkbox"/> コース図 <input type="checkbox"/> 筆記用具 (バインダー含む) <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> メモ係記入用紙 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 救急セット ※ 赤字：くらし安全安心課準備
③ マップ作製	<input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> 折り紙 <input type="checkbox"/> 付箋(2～3色) <input type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> はさみ <input type="checkbox"/> マジック <input type="checkbox"/> のり <input type="checkbox"/> パソコン・スクリーン
④ 発表会	<input type="checkbox"/> 作製した地図 <input type="checkbox"/> 指示棒 等

フィールドワークの経路選定

班での役割分担が決まったら、班ごとのフィールドワークのルートを決める必要があります。

フィールドワークは60分から90分程度で帰れる範囲が適切です。

(学区全体、又は通学路全てを歩く必要はありません。)

子どもたちが普段利用している公園、商店街、通学路等を選定することで、子どもたちの理解が一層深まります。

事前に、白地図に蛍光マーカー等でルートをかいておくと、子どもたちが迷わず行動できるよ。

地図係とグループリーダーにそれぞれ一枚ずつ地図を渡しておくといいね。



5 学習の流れ 出前授業

① 事前学習（30分～40分）

ねらい

犯罪に遭わないようにするために、危険な場所と安全な場所がわかる。
フィールドワークの際の役割と手順がわかる。

手順

- 1 犯罪から自分の身を守るためには、不審者などの「人」に注目するのではなく、犯罪の起こりやすい「場所」に注目することを説明する。
- 2 犯罪の起こりやすい「場所」とは「（だれもが）入りやすい場所」、「（だれからも）見えにくい場所」であることを確認する。
- 3 フィールドワークの手順、それぞれの役割と注意事項について確認する。



留意点

- ・場所が特定されないようにすることやプライバシーに配慮する必要があります。
- ・子どもたちの主体的な活動になるよう工夫することが重要です。
- ・指導する学年の発達段階を十分に考慮して指導することが大切です。

（参考ビデオ教材）

「作ろう！地域安全マップ」

（20分）

企画制作／全国防犯協会連合会、社会安全研究財団

監修／警察庁、立正大学教授 小宮信夫

※県内全小学校に配布済（平成19年3月）



事前学習用パワーポイント



「地いき安全マップ」とは・・・

はんざいにあわないう力を身につけるために・・・

自分の住んでいるちいきでみつけた
 ところ、
 ところ
 を示した地図です。

きけんにあわなうために・・・

どうやって?

わるい人を見わける!?

わるい人は見た目ではわからないよ。

では、どうやって
 はんざいにあわなうように
 すればいいの・・・



あぶないところとは?

あぶないところは、はんざい者
 ・わるい人
 が、
 ・子どもをまちぶせする
 ・子どもにつきまとう
 ・子どもを車でつれさろうこととする
はんざいがおきるかもしれない ところです。

[クイズ]わるい人はだれ!

【答え】
 見た目では、わかりません!

そこで、ひみつのお話・・・

はんざいしゃ はんざい
犯罪者は、犯罪をしやすい
 をえらんでいる!!

人 → **場所**

めあて

安全マップづくりを通して、
はんざいがおこりやすい場
所を見分ける力をつけよう。

9

はんざいがおきやすい
きけんな場所とは？

入りやすい場所

近づきやすい + にげやすい

見えにくい場所

かくれる + 見られない

はんざいしゃ
犯罪者が好きな場所のポイント

キーワード

場所

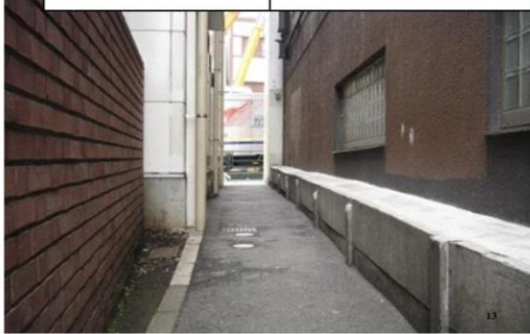
場所

10

① 入りやすい場所 見えにくい場所



② 入りやすい場所 見えにくい場所



③ 入りやすい場所 見えにくい場所



入りやすい場所 見えにくい場所



見て見ぬふり
⑤ 心理的に見えにくい場所



見て見ぬふり

⑥

心理的に見えにくい場所



いしき・かん心

見えやすい



はんざいはゆるさないぞ!

どっち?①



どっち?②



どっち?③



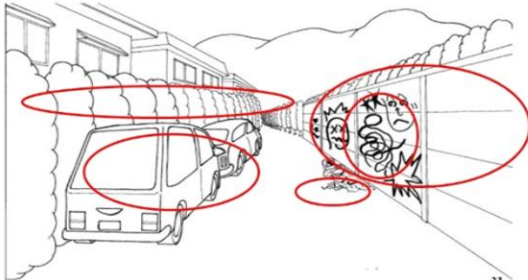
どっち?④



『犯罪がおきやすい通学路』

どっち①

どこがあぶない理由か考えてみよう!

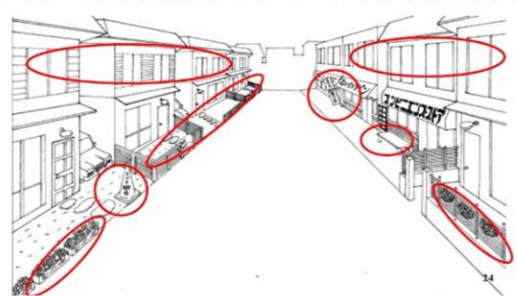


23

『どちらの公園で遊ぼうかな?』

どっち?②

どちらの公園が安全かな? そのわけも考えてみよう!



24

フィールドワーク

そとへ でてみよう



25

ひかり

係の主なしごと

はんちょう

- ・リーダー 作業のお助け

ふくはんちょう

- ・交通安全 作業のお助け

ちず係

- ・地図上の見つけた場所にシールをはる

メモ係

- ・見つけた場所の説明と理由をかく

しゃしん係

- ・あぶないところのしゃしんをとる

とけい係

- ・じかんをみる。

(地域方に、インタビューもしてみよう)



時計・インタビュー係

- ・時間内に学校に帰ってこられるように、時計を見ながらみんなに声かけをする。
- ・地域の方に出会い、インタビューできれば、おこなう。

【インタビュー例】

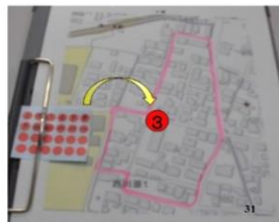
「こんにちはは、〇〇小学校で、地域安全マップを作っています。このあたりで、**犯罪にあうかもしれない**と不安になる場所がありますか？」

29

地図係

- ・写真をとった場所の説明と理由ワークシート用メモに、記入する。
- ・班長と副班長にも協力してもらいま

③が一番最初のシールになる。
(①時刻の写真②集合写真をとるため)



31

学校のまわりのどんな場所を
みつけるのかな？

【キーワード】

入しやすい場所

見えにくい場所

26

班長

- ・話し合いの時、みんなをまとめる。
- ・作業で困っていたら手助けをする。

副班長

- ・交通安全に気をつけ、後ろから声をかける。
- ・作業で困っていたら手助けをする。

GPSを使用する場合、落とさないようにポケットに入れておこう。

28

写真係

- ・話し合いで決まった「**きけんな場所、安全な場所**」の写真をとる。
- ・1か所に1まいだけとる。
- ・グループリーダーに確認してもらう。

写真のつけ方・とり方

写真の消し方



シャッターボタン 半分おしてピントを合わせます。

30

メモ係

- ・写真をとった場所の説明と理由ワークシート用メモに、記入する。
- ・班長と副班長にも協力してもらいましょう
- ・グループリーダーに確認してもらう。

場所をかく

「入しやすい・見えにくい」を きけん・あんぜん キーワードに、理由をかく。 に○をつける

番号	場所	理由	危険	安全
例1	学校前の地下道	トンネルになっていて、周りに見えにくいので危険。	○	
例2	〇〇商店	子ども110番の家 明かあったら助けもとめてにげこめる		○
③				○

フィールドワークの流れ

あぶない ところ、**あんぜん**なところ
を見つけたら、

① キーワードをもとに**班長**を中心にみんな
で相談。

↓ **OKなら**

② 写真とる(**しゃしん**係)

メモをかく(**メモ**係)

地図にシールをはる(**地図**係)

③ **グループリーダー**に確認してもらう

33

フィールドワークのやくそく

- ① 地域の方へあいさつをしよう!
- ② 交通じこに気をつける。
- ③ いえの中のしゃしんはとらない。
- ④ グループリーダー(大人の人)にかくにんしてもらおう。
(メモと写真、地図のシールが対応するように!)
- ⑤ 時間をみながら、帰ってこられるようにしよう。



写真を全部消さないように気をつけてね!

34

グループリーダーへのお願い

- ① 子どもたちが安全に気をつけて行動できるように、声かけと見守りをお願いします。
- ② メモと写真、地図の順番が対応するように、その都度確認をしてください。
- ③ 子どもたち自身で、危険な場所・安全な場所が見つけられるように見守っててください。見つからなくて困っているようなら、「入りやすい場所・見えにくい場所」をキーワードに声をかけてあげてください。



35

じゅんぴ それでは準備してね

- ・ ぼうし
- ・ えんぴつ
- ・ メモ用紙
- ・ ちず・シール
- ・ バインダー
- ・ とけい
- ・ カメラ
- ・ GPS
- ・ お茶

トイレに行ってから
集合しよう!



36

聞き書きマップの地図と写真の送付について

【 地図 】

模造紙

地図 A 4	地図 A 4
地図 A 4	地図 A 4

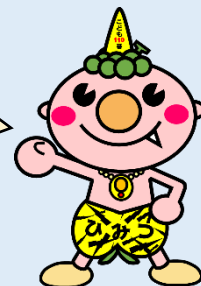
【 写真 】



できた地図と写真を送るよ!

地図は模造紙1枚用に、A2サイズ(A4(2×2))で印刷したもので、それを模造紙に貼り付けてください。

写真は、番号がついた写真を送りますので、地図上の番号と一致させて貼り付けてください。



② フィールドワーク（60分～90分） 出前授業

ねらい

犯罪が起こりやすい場所のキーワード「**入りやすい場所**」、「**見えにくい場所**」をいつも意識しながら、安全な場所・危険な場所を見つける。

手順

- 1 班ごとに、事前に決めたルートของフィールドワークに出かける。
- 2 「**入りやすい場所**」や「**見えにくい場所**」を見つければ、その場所の写真を撮る。（1箇所に1枚）
地図係は、白地図に番号シールを貼り、メモ係は、その場所がどういう理由で、「入りやすい、入りにくい」、「見えにくい、見えやすい」と考えたかをメモ用紙に記入する。
- 3 地域の方に遭ったらインタビューし、内容をメモするとともに、その危険箇所を調べる。

【インタビュー（例）】

こんにちは。〇〇小学校で、地域安全マップを作っています。
このあたりで、犯罪に遭うかもしれないと不安になる場所がありますか？

※「このあたりで、危険な場所はありませんか？」と質問すると、交通安全についての答えが返ってくる人が多いので、(例)のような聞き方を勧めます。



岡山県生活リズム向上◎
「ぼっちり！モグモグ」

留意点

- ・グループリーダー(ボランティア等)は、地図上のシールと写真、メモがそれぞれ対応しているかどうか毎回確認しながら、フィールドワークをすること。
- ・場所によっては、「**入りやすく、見えやすい場所**」や「**入りにくく、見えにくい場所**」等、一方が該当する場所もある。その場合、結論（危険か安全か）はどちらでも構わない。
（重要なのは、子どもがどういう理由で考えたか）
- ・子どもが発見することが重要です。大人が教えただけでは、子どもの力が育ちません。ただし、大事なポイントや子どもが見過ごしそうな場合は、ヒントを与えるなどの工夫が考えられる。
- ・班で協力してフィールドワークをすることが大切である。写真を撮る場所を決めたり、メモの記入したりする時は、班全員で相談しながらするように指導すること。
- ・インタビューの目的は情報収集だが、地域には子どもたちを見守っている大人がたくさんいることを子どもたちに気づかせるもう一つの目的がある。

フィールドワーク用メモ ()班

番号	場 所	理 由 「入りやすい・見えにくい」のポイントで	区 分
例1	学校前の地下道	トンネルになっていて、周りから見えにくいので危険。	きけん 安 全
例2	〇〇商店	子ども110番の家 何かあったら助けをもとめてにげこめる	きけん 安 全
③			きけん 安 全
④			きけん 安 全
⑤			きけん 安 全
⑥			きけん 安 全
⑦			きけん 安 全
⑧			きけん 安 全
⑨			きけん 安 全
⑩			きけん 安 全
⑪			きけん 安 全
⑫			きけん 安 全
⑬			きけん 安 全
⑭			きけん 安 全

※このメモを参考（さんこう）にしなが、地図を作る時に写真に説明（せつめい）を付けます。

※1枚目がグループ写真、2枚目が時刻の写真を撮るため、写真の番号が③からになっています。

③ マップ作製 (45分～90分)

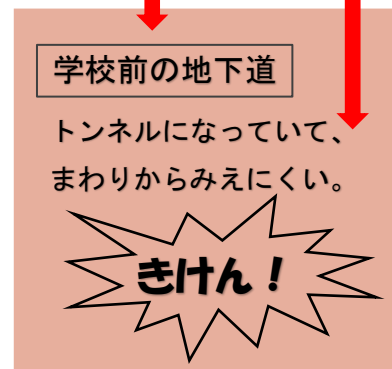
ねらい

フィールドワークで集めた情報や知識の理解を共有し、マップにまとめる。

手順

- 1 「ねらい」と「作製手順」を説明する。
- 2 地図にする写真を選び、それぞれ担当する写真を決める。
- 3 付箋紙に、危険な場所、安全な場所を色分けしてコメントを書く。
(例：危険な場所・・・赤、安全な場所・・・青)
 - ・「どうして、入りやすい場所なのか、見えにくい場所なのか」を自分の言葉でわかるように書く。
 - ・表札やナンバープレート等の個人情報が写っている場合、切り取ったり、塗りつぶしたりする。
- 4 模造紙にレイアウトし、写真をのりで貼り、付箋を写真に貼っていく。
- 5 タイトルを作る。(折り紙等で飾る)

場所を記入
キーワードをもとに、理由を記入



留意点

- ・写真は全てを使う必要はありません。(多くて10枚程度)
- ・作業が早くできた子どもには、折り紙や画用紙を使ってイラストや飾りを作るとよい。

【完成例】

イラストや飾りなどを付けるとさらにマップづくりが楽しくなる

⑤ 看板があり、道路から歩道橋を歩くと人が見えなくて音が届きにくい

⑩ 夜は人通りがなく、街灯がないので、音が届いていないので危険!

③ 会社の倉庫。だれもがらず、周りから見えない場所もありなので危険!

④ 空き地。草木が茂っており、人目がないので、危険!

⑧ 高い壁で囲まれていて、壁の中から見えません。危険!

⑨ 子ども110番の家。休まずに大人の人があるので、困ったらかけこめるので安全。

⑤ 子ども110番の家。目から逃げられるので、安全。

⑥ 高い壁にかこまれていて、周りから見えないので、危険!

⑦ 子ども110番の家。花も育てられており、地域の目があるので安全。

マップ作製用パワーポイント

ももっちと学ぼう！
**地域安全
 マップを
 作ろう！**

岡山県くらし安全安心課



復習

はんざいしゃ
犯罪者が好きな場所のポイント

キーワード

入しやすい場所

見えにくい場所

2

めあて


きけんな場所の理由を考えて、
 友達と協力してオリジナル地域
 安全マップをつくろう！



3

作る流れ

- ①写真をえらぼう！
- ②写真のたんとうを決めよう！
- ③ふせん紙に理由を書こう！
- ④もぞう紙にレイアウトしてみよう！
- ⑤のりではろう！



4

作る流れ

①写真をえらぼう！

班の写真が多かったら、どの写
 真を使うか決めましょう。

多くて1班で15枚ぐらい
 かな。




5

作る流れ

②写真のたんとうを決めよう！

だれがどの写真をたんとうする
 のかみんなでそうだんして決め
 ましょう。



6

作る流れ

③ふせん紙に理由を書こう！

キーワード

入しやすい場所

見えにくい場所



7


作る流れ

③ふせん紙に理由を書こう！

例

- ・さくやチェーンがないので・・・
- ・屋間でも人が少ないから、・・・
- ・かくれるところがあるので、・・・
- ・へいが高いので、・・・
- ・落書きがあるので、・・・

書いたふせん紙は、写真のはしにはりましょう。



8

作る流れ

④もぞう紙にレイアウトしてみよう！



④もぞう紙にレイアウトしてみよう！

(1) タイトルを書いて、レイアウトする。



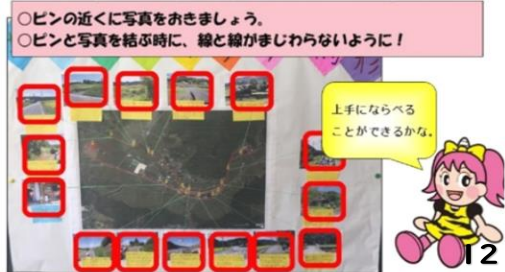
④もぞう紙にレイアウトしてみよう！

(2) 地図の写真をもぞう紙の真ん中の方へおく。



④もぞう紙にレイアウトしてみよう！

(3) 地図のまわりに写真をおく。



④もぞう紙にレイアウトしてみよう！

○ピンと写真を結ぶ時に、線と線がまじわらないように！



⑤のりではろう！

○のりではった後に、ピンと写真をじょうぎで結ぼう！



発表の準備

はやくできた班は、発表の練習をしたり、飾り付けしたりしよう。

大切なこと

自分のたんとうを発表できるようにしましょう。

自分のことばで発表しましょう。

15

見本



④ 発表会（４５分～９０分）

ねらい

作製した地域安全マップを下級生、地域の方や保護者等に発表することで、地域への愛着と理解を深め、これから自分たちが地域で安全に生活するために何ができるのか考えるきっかけとする。

手順

- 1 自分たちがフィールドワークで見つけた、犯罪がおきやすい危険な場所、安全な場所がどのようなところにあるのか、理由を述べながら班ごとに発表する。
- 2 地域安全マップづくりをとおして、気づいたことやこれから気をつけたいこと、今後についての抱負についても発表も発表する。（ふりかえりシートの活用可）



留意点

- ・発表会のスタイルは「グループの代表者が行う」「全員が発表する」等があるが、できるだけ全員が発表できる機会を設ける。
- ・保護者や見守り活動をしている地域の方を発表会に招待することで、子どもたちにとって、相手意識をもって発表に取り組めるとともに、学校の防犯教育への理解につながる。



地域安全マップふりかえりシート 年 名前()

◆ 気づいたこと、これから気をつけたいこと、がんばりたいことなどを書きましょう。

6 指導者用資料

① 「入りやすい場所」と「見えにくい場所」の例

指導者は、「犯罪が起りやすい場所」はどんな場所かしっかり理解することが必要です。「入りやすい場所」と「見えにくい場所」の例は以下のような場所です。

地下通路

- 誰でも通ることができるので、入りやすい場所です。
- 出入口まで距離があり、大変見えにくい場所になっています。
- 犯罪者は容易に近づくことができ、犯行は見られにくく、また、犯行後も何食わぬ顔で逃げることができます。



山に入る道

- 大通りから簡単に入ることができるのでとても入りやすい場所です。
- 山道に入ってしまうと木々のためにまったく見えなくなります。



ビル等の間の路地や建物裏のスペース

- 自由に入出入りできるので、入りやすい場所です。
- 両側ともに高いブロック塀で見えにくい場所です。



駐車場

- 出入口が管理されておらず、外から誰でも入りやすく、奥に行くと見えにくい場所になっています。
- 防犯カメラの設置や設置してあることを看板で表示するなど、犯罪の未然防止策があるかどうかを確かめてみるのが大切です。



公園

- 周囲をブロックとフェンスで囲まれていて入りにくいですが、木が生い茂っており、中が見えにくい場所と言えます。
- 犯罪者が身を隠す場所もあり、中が見えにくいので、犯罪があったとしても見つからない可能性もあります。



住宅街の路地

- 大通りから簡単に出入りできるので、入りやすい場所です。
- 住宅の高い生け垣やブロック塀が続き、住宅の中からの自然な視線は感じられず、見えにくい場所だと言えます。



土手と家の中の路地

- 大通りから簡単に出入りできるので、入りやすい場所です。
- 生垣で、家の中から見られることがなく、見えにくい場所だと言えます。
- 犯罪者は何食わぬ顔で、近づき、逃げるができます。



高架道路や階段の下のスペース

- 自由に出入りできるので、入りやすい場所です。
- 柱や階段の陰で、待ち伏せができ、犯行も見られることがありません。
- 柱には落書きが放置されたままで、周囲にはゴミが散乱しており、地域の関心がないことが感じられて、心理的に見えにくい場所だと言えます。



放置自転車

- 公園脇のスペースに自転車が放置してあり、無関心のサインと考えられます。
- 心理的に見えにくい場所と言えます。



視線の届かない場所

- 車で自由に往来できるので、入りやすい場所です。
- 歩車道が分離されていない上にガードレールもないので、車に連れ込まれやすいです。
- 視界は開けていますが、民家が遠く視線が届きにくいので、見えにくい場所になります。



② 「入りにくい場所」と「見えやすい場所」の例

また、指導者は、「犯罪が起りにくい場所」はどんな場所かしっかり理解することも必要です。「入りにくい場所」と「見えやすい場所」の例は以下のような場所です。

公園①

- 周囲をフェンスに囲まれ、植木も中が見えるように手入れされ、見えやすい公園です。また、周囲に民家があり、その窓から自然な視線が注がれるような意識が生まれます。
- 幼児が遊具で遊ぶスペースとその他のスペースが視覚で分かるように区別されており、犯罪者が遊具で遊んでいる幼児に心理的に近づきにくくなっています。



公園②

- 周囲に民家があり、その窓から自然な視線が注がれるような意識が生まれます。
- 幼児の遊ぶ遊具のあるスペースに隣接して、小中学生や大人等がボール遊びをする広場があり、遊具で遊んでいる幼児へ広場で遊ぶ小中学生や大人から自然な視線が注がれるように工夫されています。



マンションの出入口

- 門は施錠され、フェンスで囲まれているので入りにくい場所です。
- 周囲から見えやすいフェンスになっています。
- 監視カメラがあり、侵入者を見張っているため、見えやすく、入りにくい場所となっています。



監視カメラのある駐車場

- 周囲をフェンスに囲まれ、入り口に監視カメラが設置されているため、入りにくく、見えやすい場所と言えます。



管理の行き届いたゴミステーション

- 施錠され、中も整理整頓され清潔で、地域の人々の管理が行き届いています。
- 反対にゴミが散乱していたり、施錠等の管理が不徹底であったりすると、地域の関心がない場所、つまり、「見えにくい場所」となります。



駐車場

- フェンスで囲まれているので、中が見渡せません。入り口の管理もできており、入りにくい場所になっています。



手入れの行き届いた田畑

- 畑への立入りができないように、柵が設けられています。
- 手入れが行き届いており、作業をしている人がいることが感じられます。
- 作業小屋には施錠してあり、入りにくい場所となっています。
- ビニールハウスなどは管理が行き届いていないと、見えにくい場所になることがあります。



地域の掲示板

- 掲示物の張り方が整っており、お知らせの内容、日付も更新されているので、地域の人々の関心は高いと言え、人の目が注がれていることがうかがえます。
- 掲示物が破れていたり、古いものがそのままになっていたりしていると地域への関心が低いと言えます。



花の手入れ

(ガーデニング)

- 家の前のプランターの草花は手入れが行き届いており、住人の道路(通行人)への関心が高いと言えます。
- 犯罪者に「誰かが水やりに来るかもしれない。」という感覚を与え、心理的に入りにくく、見えやすい場所と言えます。



安全は 地域のきずなと
あなたの意識



③ 誤った方法で作成された効果の弱い地図

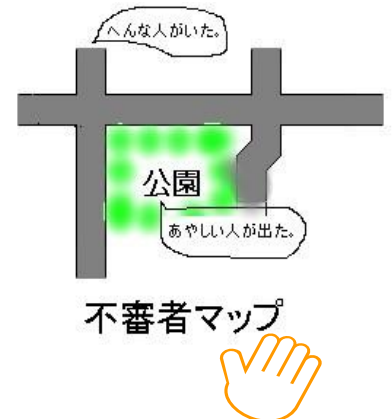
○ 不審者マップ



「変な人が出た」「あやしい人がウロウロしていた」などと、不審者が出没した場所を表示したマップを作製することは効果的でない上に、有害でさえあります。

不審者かどうかの判断が主観的なものであり、特定の人などを不審者扱いしてしまう差別的な地図になるおそれがあります。

子どもに、単純に「不審者に注意しましょう」と指導することは、「進んであいさつをしましょう」、「困っている人がいたら助けてあげましょう」などと指導していることと矛盾してしまい、子どもを混乱させることとなります。



「犯罪が起こりやすい場所では注意しよう。」

○ 犯罪発生マップ

犯罪が発生した場所を単純にそのまま地図に書き込むだけでは、危険な場所を見極める能力は育ちません。

さらに、犯罪発生場所を探す作業を行っている時、被害体験を聞き出すことにつながり、心の傷（トラウマ）を深めてしまうおそれがあります。

被害に遭った子どもの心のケアには十分な配慮が必要です。

○ 不安に感じている場所を表示した地図



日ごろ不安に感じている場所では、注意しているはずなので、その場所を単純に地図に落とすだけでは、被害防止のための意識と能力の向上は期待できません。

監 修 小宮信夫（立正大学教授）

（参考資料）

- ・「地域安全マップ作製マニュアル」 東京法令出版
立正大学文学部社会学科 小宮信夫 教授（岡山県犯罪のない安全・安心まちづくり検討委員会 顧問）
- ・広島県 子どもの犯罪被害防止プロジェクトチーム 「地域安全マップ」の作製方法
- ・東京都 大東京防犯ネットワーク 東京都安全・安心まちづくりアカデミー「地域安全マップをつくろう！」